

# 「ナラ枯れ」カシノナガキクイムシ

2020.7.30(木) 甚左衛門の森(松戸市高塚新田)

参加者: 28名、森林研究所3名(福島・福原・幸氏)

講習後 しんやまの森⇒囲いやまの森⇒三吉の森

木の幹に穿入孔があり、根元に大量のフラス(木くず等)がたまっている。フラスは木の中で生活するクイムシが穿入する際に発生し、穿入孔は直径2mm程度。

ナラ枯れ: ナラ類、シイ・カシ類等のブナ科の樹幹に、カシノナガキクイムシ

(体長4~5mm程度の小さい虫)が穿入し、ナラ菌を木の中に運び、この菌が増殖して通水障害が起こり、7~8月頃枯死する樹木の伝染病。・松戸・市川・柏・印西で被害確認

## ナラ枯れのメカニズム

カシノナガキクイムシは、6~7月にナラ類に穿入し産卵するが、その時にナラ菌が樹体内に入り、ナラ菌は孔道を伝ってまん延し、通水機能を失い 8月頃葉が赤褐色に変色する。幼虫は樹体内で成長・羽化し、翌年6月頃ナラ菌を持って飛び出し 新たに健全な樹木を探し 穿入する。松戸市でも迅速な初期対応で 被害の拡大を防ぐ必要がある。



カシノナガキクイムシ 4~5mm



穿入孔 2mm くらい 楊枝で刺せる



多量のフラス(木くず) 甚左衛門の森



福原一成氏の講義(甚左衛門の森)



コナラにたくさんのクイムシの穿入孔があり 伐採枝にも穿入孔が多くみられる(囲いやまの森)

